

e-dream-s 通信

No. 94 発行：2008年12月14日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

今年最後の通信となりました。CamTESOL 2009 の準備状況などをお伝えします。山田理事からサンフランシスコ便りも届いています。どうぞお楽しみください。

目 次

- | | | |
|----------------------------|------|------|
| 1. カンボジアへの道 since2008 | 中川房代 | p. 2 |
| 2. いい歳して | 辻 莊一 | p. 3 |
| 3. 内向き嫌い | 井川好二 | p. 6 |
| 4. アリゾナとプノンペンからのメール | 塚本美紀 | p.10 |
| 5. <サンフランシスコ便り 14号>メキシコへの旅 | 山田昌子 | p.11 |



サンフランシスコの Pier 39 のクリスマスツリー
(08年12月 山田昌子氏撮影)

カンボジアへの道 since 2008

中 川 房 代

そろそろ暖房が欲しいなあ?...と思っているうちに、もう12月。あと2週間で2008年も終わりである。3学期制の中学校に勤務していると、秋から冬にかけてのこの2学期は、体育大会や文化祭といったメインの学校行事が前半にあり、それが終わると、毎年、後半の2ヶ月はあっという間に過ぎていく気がする。

私は今年度3年生の学級担任をしている。今は卒業後の進路を決定する三者懇談の真っ最中。自分の将来の職業を見据えた進路選択をしようとしている生徒、この1年の経験や出会いの中から自分の夢を見つけた生徒、希望と現実が咬み合わず悩んでいる生徒、まだまだ人ごとで志望のはっきりしない生徒など、それぞれではあるが、初めて自分で道を選択しなければならない局面に戸惑いながらも、少しずつ成長してきたのが分かる。

この懇談で生徒たちの人生全てが決まってしまうという訳ではないが、人生の進路選択の一部分に私も関わるということには違いなく、そう考えると、教師として或いは大人の一人としての責任の重さを感じる時期でもある。少しでも多く彼らの希望が叶えてやれるよう、またよりよき進路選択ができるよう、サポートできたらと思っている。

振り返って、e-dream-sの2008年は、カンボジア・プロジェクトへの道を開いた1年であった。2月の「CamTESOL 2008 (カンボジア英語教育研究発表会)」への参加と2本の発表から始まり、8月の「カンボジア視察ツアー」の実施、英語教育奨学金の提案、来年1月のソコム先生の来日、そして2月の「CamTESOL 2009」への参加と3本の発表へと繋がっている。「CamTESOL 2009 ツアー」の準備も、フライトの手配、発表の準備等着々と進んでいるようである。

夏から論議が始まっているe-dream-sの新規プロジェクトは、カンボジア学生への英語教育奨学金の創設である。私が毎日接している日本の中学生は上のような感じだが、カンボジアの中学生は何を考えて毎日を過ごしているのだろうか?彼らは将来についてどう思っているのだろうか?もっと英語を学びたいと思っている中学生はどのくらいいるだろうか?.....まだまだわからないことも多い。

1月初めにカンボジアの英語教師であるソコム先生が来日し、カンボジアの教育事情、英語教育の現状についてお話して下さることになっている。この機会に、私たちの提案する英語教育奨学金についても意見交換しながら進めていきたい。2009年夏頃をメドに、要項をまとめていきたいと考えている。

私たちのカンボジア・プロジェクトへの道はまだ始まったばかり。これから道を創りながら、皆で踏みしめ、確かな足取りで歩いていきたいものである。2009年はそんな年にしようではありませんか!

いい歳して

辻莊一

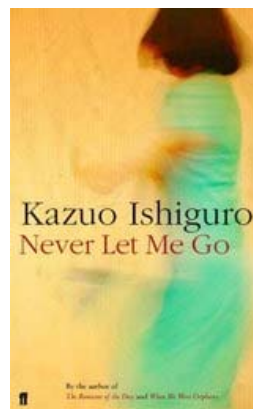
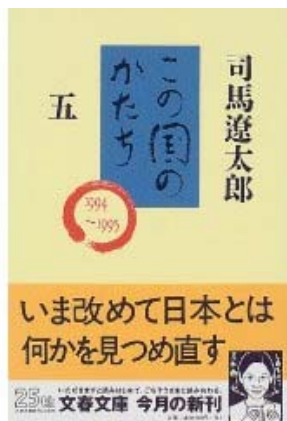
もう20年近くになるだろうか、ずいぶん長い間電車通勤をしていない。これはつまり勤務先が自宅から近いということで、ある意味、いや、どんな意味でも幸運なことである。毎日のことだから通勤時間20分と1時間では通勤で消耗する体力も、一日の長さも全く違う。ただ、電車通勤の良いところは読書ができることである。

読まなければならない本を常に何冊も抱えている。いや、誰も読めと言っているわけではないのだが、自分で読もうと思ひ、読みかけのままになっている本が日本語の本、英語の本、マンガ取り混ぜて10冊以上も溜っている。

枕元に積み上げられた(或は散乱した)本を見て電車通勤なら、もっと読めるのにと贅沢なことを考えてしまい冒頭の文章となったわけである。

ここ10数年は布団の中以外の読書時間は、昼食時である。10分とか15分しかなくしばしば電話や生徒によって中断されるが、うまく昼休みをさけて食べられる時は、結構充実した読書時間になる。

英語教師でありマンガ読みの私なので読む本は当然、日本語の本、英語の本、マンガ取り混ぜて、ということになる。遅ればせながら司馬遼太郎の「この国のかたち¹」だったり、Kazuo Ishiguro 「Never Let Me Go²」だったり、東村アキコ「ママはテンパリスト³」だったりする。



¹ この国のかたち (このくにのかたち) は、司馬遼太郎のエッセイ。1986年から1996年に司馬の死去によって終了するまで文芸春秋に巻頭随筆のトップとして連載された。(Wikipedia)

² Never Let Me Go (2005) is a novel by British author Kazuo Ishiguro. It was shortlisted for the 2005 Booker Prize (an award Ishiguro had previously won in 1989 for *The Remains of the Day*), for the 2006 Arthur C. Clarke Award and for the 2005 National Book Critics Circle Award. Time magazine named it the best fiction novel of 2005 and included the novel in its TIME 100 Best English-language Novels from 1923 to 2005.[1] It also received an ALA Alex Award in 2006. (Wikipedia)

³ 「ママはテンパリスト」は東原アキコによる育児マンガ。「普通にギャグ漫画として十分に完成されていると感じた。明らかに育児経験者以外が読んでも大笑いできる内容になっている。」(紙屋研究所) <http://www1.odn.ne.jp/kamiya-ta/mama-ha-tenparist.html>

この昼食の読書時間に電話や用事などで同僚に声をかけられることもしばしばあるのだが、読んでいるものによって声のかけられ方がちょっと違っている。典型的には以下の通り。

- (1) 日本語の本の場合 「読書中すみませんが・・・」
- (2) 英語の本の場合 「お勉強中すみませんが・・・」
- (3) マンガの場合 「お楽しみ中すみませんが・・・」

声をかける人の頭の中には、私が読んでいるのが日本語の本の時は「読書」という教養を高める行為をしていて、英語を読んでいる場合は、英語の「勉強」をしており、マンガを読んでいる場合は「娯楽」の最中であるという図式があるようである。

いや、なにもそのことに文句をつけるつもりもないし、声をかけられた時に「いや、私は勉強のために英語読んでいるわけではありません」とか、「このマンガを読むのは仕事のためです」(実際そうではないので)などと反応しているわけでもない。おそらく多くの場合(日本語の)読書は「教養」、英語の本は「勉強」、マンガは「娯楽」で間違いはないのだろう。私の場合は、すべて真面目に娯楽しているのだが。

こんなことを書いたのは、あるブログ⁴でこんなエントリーを読んだからである。

以下引用

「いい歳して漫画読んでるなんて、恥ずかしくない？」と言われた。

別に恥ずかしいと思った事はない。元々、人の目を気にする方でも無いし。

それはさておき、もう何年も前からテレビでやっているドラマの大半が漫画を原作とした作品で、原作無しのオリジナルドラマに比べれば、どれもそこそこの視聴率を出している。

上の台詞を吐いた人も、それらのドラマを見ているのを知っている。なぜ元の漫画だと「いい歳して」なんだろうか。

多分自分が見ているドラマが、漫画を原作にしたものだと知らないからなんだろうが、人のことを「漫画なんて読んで」と批判しながら、自分はその漫画を原作とするドラマを毎週「面白い」とどっぷり浸かって見ているなんて、なかなか愉快的な人だなとちょっと可笑しかった。

よっぽどそのことを指摘してやろうかとも思ったが、無理にことを荒立てなくてもいいだろうと「そうですね」と言っただけに留めたが、あの時「あなたが楽しみに見ているドラマ、どれも元は漫画ですよ？」と言っていたら、あの人はなんて言ったんだろう。って、きっと「ドラマはいいのよ」と言い返してきたら。

やっぱり一言言って反応を見ておけばよかったと、今になって思う。

引用終わり

これを読んで「おお、やっぱり私はそう見られていたのか。みんな遠慮して言わないけれど」と思い、前述の同僚の言葉を思い出したのである。だからと言ってマンガを人前で読むのはやめよう、とも思わなかったけれど。

⁴ <http://anond.hatelabo.jp/20081129133527>

日本語の本も英語の本もマンガもみんな同じメディアであり、メディアのジャンルに貴賤はないと大上段に言いたいわけではない。貴賤があるかもしれない。ただ、メディアには成熟しているメディアと未熟なものがあり、書籍は言うに及ばずマンガというメディアも十分に成熟していると思う。つまり、大人がちゃんと楽しめるものになっていると思うのである。もちろん何を読むかは慎重に選ばなければならないけれど。

だから「いい歳して」かどうかは、日本語の本を読んでいるか英語の本を読んでいるかマンガを読んでいるかではなく、どんな本やマンガを読んでいるかで判断してもらいたいと思うのである。

内向き嫌い

井川 好二

「センセ、今日は、なんでご機嫌斜めどすのん？」

「なんでて、最近、気にいらんこと多すぎる」

「そらそうどすけど・・・」

「いろいろあるけど、ジャパンが、なんやこう内向きになってきてるのが、一番気に入らん」

「日本が、内向き、どすか？」

行きつけの割烹の白木のカウンター。女将を相手に飲んでいる。平目の昆布⁵を柚子の出汁で。美味しい日本酒がより美味くなる。



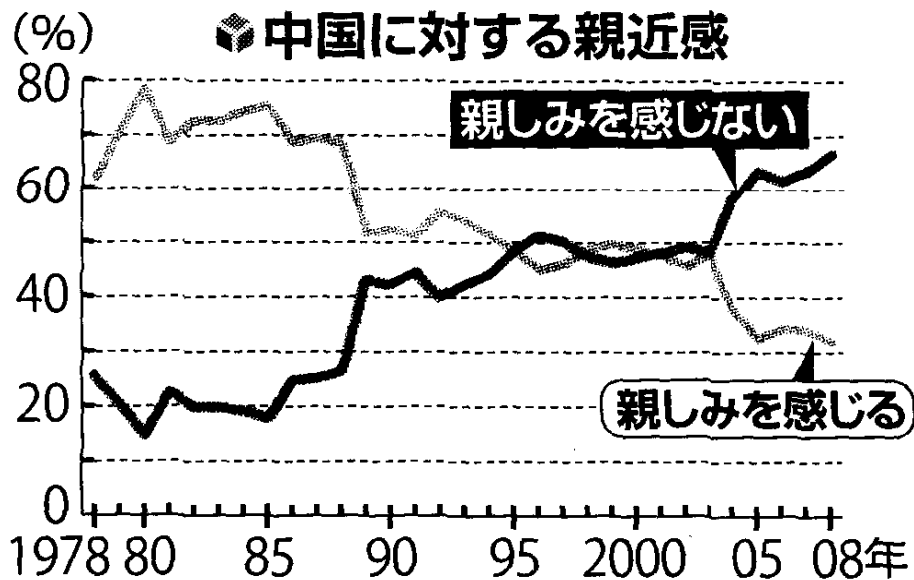
平目の昆布⁶

年々12月は忙しい季節になって、今年も慌ただしい思いをしているのだが、それでも年の瀬が近づくほど、ホッと一息つく時間もできて、1年を振り返り、ゴタクを述べる幸せもある。

最近の内閣府の「外交に関する世論調査」によると、日本人の66%が中国に「親しみを感じない」と答え、日中関係は、「良好だと思わない」とする人が7割を越えたと云う。

⁵塩や酢で締めた魚の身などを昆布に挟み、昆布の風味を移すこと。また、その料理。[株式会社岩波書店 広辞苑第六版]

⁶ クロワッサン (2008, November 10) p. 26.



内閣府「外交に関する世論調査」より⁷

無論、中国製冷凍餃子による中毒事件などの、中国製の食品の安全性の問題が、日本人の中国観に影をおとしている。しかし、今年は北京オリンピックも開かれ、中国を訪問した日本人の数もぐっと増えたであろうにも関わらず、中国に「親しみを感じない」とする日本人が増えているところが、問題なのである。

一時は空前の「中国ブーム」と云われ、中国語を学ぶ人が急増し、中国のあちこちへ観光に出かける日本人が増え続けていたのだが、最近はごく低調。私の勤務する大学でも、今年、上海や杭州などを訪れ、中国文化に触れるツアーを企画したのだが、参加者数は芳しくなかった。中国製の食品を買うのはやめても、日中関係は大切。それに、円高が進む今こそ、海外旅行は「行き得」のはずなのに、である。

「そうどすな、中国は人気おへんなあ」

「けど、目先に、どんなことがあっても、中国は昔から日本の隣人。13億の人口と、爆発的な経済発展」

「ホンニ、無視でけしまへん」

「今、中国をわかる努力をせんとあかん」

中国との関係だけではない。同じ内閣府の世論調査では、日米関係が良好と答えた人も、前年から7.4ポイントダウンの68.9%と、7割を切った。北朝鮮のテロ支援国家指定解除や、アメリカ発の世界金融危機が、原因だと内閣府は分析するが、この世界的不況の中、今こそ以前にも増し

⁷ 読売新聞 (2008, December 7) 「中国に親しみ感じず：最悪66% 内閣府世論調査」朝刊

て日米関係を強化すべき時期であるにも関わらず、である。

「けど、オバマはんが大統領になりはったら、日本人の意識も変わるのと違います？」

「そやなあ、ブッシュが辞めて、オバマになったら、こっちも **Change** か」

「けど、日本の政治は・・・」

「ジャパンは、相変わらず、どこまで行っても、内向きか」

最近のタイの政情不安も、日本人の内向きが進む要因と云える。バンコクの国際空港が反政府グループによって占拠され、約一万人の日本人がタイから出国できず立ち往生。現地でインタビューされていた中年の日本人観光客が、「これまで気に入って何10回もタイへ遊びに来ているが、今回の騒動で、つくづく嫌になった。もう絶対タイには来ない」と云うのが、日本のテレビで何回も放送された。

取材の意図にぴったりの発言だったのだろうが、この報道の意味は大きい。無論、タイへ観光に行く日本人の数は、激減するに違いない。その分、国内の温泉で蟹を食べる人が増えるのか？

「センセのお好きなひろうす」

「おお、美味そう」

「丹波の黒豆の枝豆入りどす」

「そらええ」



丹波の黒豆の枝豆入りのひろうす⁸

スウェーデンのストックホルム大学で、ノーベル賞を受賞した益川教授が、記念講演を日本語で行った。英語でやるのが常道だが、自分は英語ができないからと、開き直って字幕付きでの日本語講演。

洋画を観る時を思い出しても、字幕で伝わることと伝わらないことがあり、こうした場合、観客

⁸クロワッサン (2008, November 10) p. 31.

の協力があって成り立つもの。それに甘える老学者はともかく、このニュースを嬉々として報じる日本のマスコミと、それをうれしがる日本人たち。いかがなものか。街頭インタビューでの、「胸がすっきりしました」と云うコメントが、テレビで再三報じられた。

また、翌日の授賞式で、益川氏を含む日本人受賞者の紹介が、急遽日本語でなされたことを考えれば、主催者側の態度と日本側の態度の差。日本人は何と「内向き」であることか。思えば、スウェーデン人も英語の **Native Speaker** ではないのである。

老学者は、ノーベル賞物理学賞受賞で、若い世代が科学を学ぶモチベーションを高め、ロールモデルとしての役割を果たしたことに間違いないが、国際人を育てる教育の面では、反面教師⁹であったと云わざるを得ない。

「そんなに、内向きがお嫌いですか」

「そや。温泉に浸かって蟹食うてるばかりじゃ、日本人は進歩せん」

「けど、センセかって、和食、お好きなくせに。蟹かて・・・」

「そやなしに、内向き、外向き、両方に眼がいかとあかん云うてるんや！」

「ああ、怖っ」

「・・・」

「けど、今晚は、内向きのお勉強会に、いたしまひよ」

と、しゅっと白い腕が伸びて、杯を取る。待っていたように、片口から一献。

師走の夜も、ゆっくりできる酒がうれしい。これは、やはり、内向き？(Saturday, December 13, 2008)

⁹ はんめん - きょうし【反面教師】(第二次大戦後、中国からきた語)見習い学ぶべきではないものとして、悪い手本・見本となる事柄・人物。[株式会社岩波書店 広辞苑第六版]

アリゾナとプノンペンからのメール

塚本美紀

アリゾナ州立大学の大学院で学ぶカンボジア人のKさんから数日前メールが届いた。「そちらは、もう雪が降っているのではありませんか。どうかお体ご自愛ください。」とのメッセージに心が温まる。初めてのセメスターがあと1週間でなんとか終わり、課題がたくさん出ているものの、1ヶ月ある冬休みが楽しみだとのことである。友人と共にワシントン、ボストン、ニューヨーク、カナダを訪問し、ニューヨークではタイムズ・スクエアでカウントダウンをするのだという。

同じ日に、Kさんの幼馴染で、プノンペンに住むSさんからもメールが届いた。「雪が降ったそうですね！私が日本に行くときも雪が降っていてくれるといいなと思います。」と言う。彼女は冬休みのアクロス合宿に参加してくれることになっている。彼女にとって初めての雪を見せてあげられるといいなと思う。

二人の故郷を今年の夏に訪れた。舗装していない道に露天が並ぶ小さな村だった。はだしの子供たちが楽しそうに笑いながら走り回っていた。そんな小さな村で生まれ育った二人が、首都プノンペンの大学で教育を受け、今それぞれの道を歩んでいる。Kさんはフルブライト奨学金を得て、アメリカの大学院でTESOLを学んでいる。卒業後は、カンボジアに戻り、国の発展のために教育に関わる仕事をしたいと言っている。Sさんは、日本政府の奨学金で来年の秋から名古屋大学の大学院で開発教育について学ぶことになっている。卒業後は、カンボジアの国際機関で働くことが夢だと言う。

国の将来を背負って立とうという若者と話すのは気持ちいい。こちらも勇気がわいてくる。そして、少し長く生きてきたものとして、自分にできることは何だろうかと思う。CamTESOLまで後2ヶ月。準備を着々と進めているところである。今回はどんな出会いがあるのだろうか。そして、「自分にできること」の枠組みを少しでも作ることができたらと思う。

メキシコへの旅

理事 山田昌子

12月22日の秋学期終了後は、約1か月の冬休みです。ずっと以前から日本に帰らずメキシコか南アメリカに旅行しようと思っていました。たまたま同じ希望の女性の友人2名（日本と韓国出身のサンフランシスコ州立大学の院生）と一緒に旅をすることになりました。私はペルー・マチュピチュに行きたかったのですが、この時期は雨期で寒く、3～8月の方が訪問に適していると聞いたので今回は諦め、メキシコに決定！そして散々悩んだあげく、首都Mexico Cityと先住民文化で有名なOaxacaを訪れることにしました。

偶然にもInternational Houseにメキシコ出身のresearcher Cさんがご家族（妻と子供）と滞在されていて「12月に帰国するから、Mexico Cityとその周辺を案内してあげよう」と提案してくれました。なんてラッキーなのでしょう。

その上、Oaxacaのホテルをまだとっていないと言ったら、ホテルを探してくれました。ところが、この時期は人気が高く、メキシコ人が泊まる安くていいホテルは一杯。彼に任せてばかりで申し訳ないと、私もネットで調べました。最初にアタックしたB & Bは空きがなかったのですが、そのオーナーが別のB & Bを紹介してくれました。タウンの中心部に近い、Casa Los Arquitos¹⁰というB & Bです。ダブルベッドが2つある部屋（bath付き）で、一泊US\$100（3名で；朝食付き）。リーズナブル！depositを支払わなければいけなくて、指定されたwebsiteに行ったらスペイン語で読めない。「英語のwebsiteを紹介して」とメールしたら、そこのオーナーはすぐに返事をしてくれました。やり取りは何度かあったのですが、いずれも直ぐにメールをしてくれ、とっても親切！クレジットカードで支払いをしたら、最後の確認書がまたまたスペイン語。Cさんにメールで「読んで」と頼んだら、すぐに電話で返事をしてくれ、問題なし。B & Bからも直ぐに「支払い完了」のメールが届きました。

また、友人のPさんの友人の友人も、Mexico City郊外に住んでいて、訪問することになりました。アメリカ人で、学校の創設者で、メキシコとアメリカのexchange programをしたりしているそうです。今から会うのが楽しみです。

たまたまでしょうが、いい人にばかり巡り会い、今から12月25日～1月5日のメキシコ旅行が楽しみです。きっとスペイン語に悩まされるとは思いますが、なんとかなりそうと楽天的になってきました。実は1か月程風邪に悩まされ元気がありませんでしたが、学期終了後の旅を考えると、心はメキシコに飛んでいます！

¹⁰ <http://www.casalosalquitos.com/>

★お知らせ★

<第30回理事会（拡大理事会）>

1. 日 時：2009年1月4日（日） 19：00～20：00（予定）
2. 会 場：「コープイン・京都」会議室
3. 案 件：（予定）
 - (1) 事業中間報告、及び今後の方針
 - (2) 収支決算中間報告
 - (3) その他

<編集後記>

変化の多かった今年一年の日本国内の出来事を、あれこれ振り返る時期となりましたが、通信を読みながら、国外の諸事情にも少々思いを馳せ、そこで暮らすさまざまな人々の姿を想像しました。気ぜわしい年末ですが、みなさまのご健康をお祈りいたします。 (道面
和枝)